

# ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年7月14日～7月20日)

2020年7月22日

在ベラルーシ大使館

## 【主な出来事】

- 中央選挙管理委員会は5名を大統領候補として登録(7/14)
- ユーラシア経済同盟(EAEU)政府間協議の開催(7/17)
- チハノフスカヤ大統領選挙候補, ババリコ氏・ツェプカロ氏陣営と団結を表明(7/17)
- 駐米大使ほか高官人事(7/20)

## 【ルカシェンコ大統領動静】

### ●駐米大使ほか高官人事(7/20)

外務省幹部人事(括弧内は任命前または直近の役職)

- ・駐米大使 オレグ・クラフチェンコ(外務次官)
- ・駐オランダ大使 アンドレイ・エヴドチェンコ(第一外務次官)
- ・駐オーストリア大使(スロヴェニア兼轄、在ウィーン国際機関代表部及びOSCE代表部常駐代表を兼務) アンドレイ・ダプキュナス(外務次官)
- ・駐カザフスタン大使 パヴェル・ウチュピン(元産業大臣)
- ・駐英大使(アイルランド兼轄) マクシム・エルモロヴィチ(元財務大臣官)
- ・外務次官(オレグ・クラフチェンコ氏の後任) セルゲイ・アレインク(駐英大使)
- ・第一外務次官 アレクサンドル・グリヤノフ(駐イタリア大使)

### 国立銀行副総裁

- ・イロナ・レドニツカヤ(前同行銀行業務管理総局長)(7/20 大統領公式ホームページ)

### ●マミン・カザフスタン首相と会談(7/17)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・我々は、ナザルバエフ初代大統領やトカエフ現大統領がベラルーシに訪問した際に合意した目的を遵守する。我々は、我々に依拠する全てのことを実践する。カザフスタン政府がこの方向に進めば、あなた方は

我々から肯定的な歩みを受け取ることができるであろう。我々は経済を中心としてカザフスタンと良い関係を維持していきたい。

・経済で問題はない。ただ現行の貿易高は、我々の経済にとって十分ではない。我々が製造するものは、カザフスタンで必要であろう。カザフスタンが製造するものは、ベラルーシで必要である。供給や物流で一定の問題は存在する。しかし、新たな露首相と新たな政府とともに、ユーラシア経済同盟(EAEU)含め多くのことができるであろう。

・ベラルーシとカザフスタンは、EAEUの形成と発展へのアプローチが似ている。EAEUを作り上げた時、我々は常にナザルバエフ初代大統領と共に理解を見つけてきた。そのため、貴方は、ベラルーシの方向性について心配する必要はない。我々は常に統一に向けて取り組んでいる。

マミン首相の発言要旨は以下の通り。

・ゴロフチェンコ首相含め、ベラルーシの新政府と会談を行ったが、非常に生産的であった。我々は、両国が潜在性を秘めているが実現していない新たな分野について協議した。例えば、農業複合施設分野である。我々は、同分野におけるベラルーシの高い能力を理解しており、我が国の隣には中国という巨大な市場があることから、共に協力していこうと提案した。

・ベラルーシとカザフスタンは、戦略的パートナーシップや国民の相似性、両国首脳の良い関係によって、特別な関係を結んでいる。これらは、我々が関係を発展させる上での礎となっている。

(7/17 大統領公式ホームページ)

### ●ポロノフ・キルギス首相と会談(7/17)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・昨年、ベラルーシ・キルギス間の貿易高は減少したが、今年は、新型コロナウイルス感染拡大にもかかわらず、1月～5月で貿易高の増加が見られる。統計を見て驚いた。全ての国で貿易高が落ちている。しかし、我々は増加させることに成功した。これは良い兆候であり、我々は相互に必要な存在である。

・貴首相がベラルーシを訪問し、我が国の首相や閣僚と知り合いになったことを高く評価しており、引き続き交流することを願う。

・ベラルーシとキルギスの経済構造は似ている。両国ともに、資源は少なく、国民は勤勉である。だからこそ、神が我々を共に暮らし、この同盟の中で協力するように仕向けたのであろう。

ポロノフ首相の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシでとられた新型コロナウイルス感染拡大対策を高く評価する。ベラルーシは、効果的に新型コロナウイルスと闘っており、勝っている。ベラルーシの知見は他国にとっても興味深いものであろう。また、ベラルーシで製造された医療用品の質の高さを評価している。

(7/17 大統領公式ホームページ)

### ●国家安全保障会議メンバーを刷新(7/17)

新規メンバー

- ・ゴロフチェンコ首相
- ・ラフコフ国家安全保障会議国家書記
- ・チェルチェリ国家管理委員会委員長
- ・フレニン国防大臣
- ・パントウス国家軍需産業委員会委員長
- ・ヴォリフォヴィチ国防省第一次官

除外されたメンバー

- ・ザシ前国家安全保障会議国家書記
- ・アンフィモフ前国家管理委員会委員長
- ・ルマス前首相

(7/17 大統領公式ホームページ)

### ●ミシュスチン露首相と会談(7/17)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・EAEU 政府間協議は、貴首相にとって骨を折るものであったろう。なぜならば、多くの議題が、ロシア連邦から始まるものである。貴首相は、全てに対応する必要があったであろう。これがロシアの運命であり、経済を中心とした旧ソ連圏における各種プロセスの牽引役である必要がある。

・両国の関係について、貴首相は、我々ベラルーシがどこにいくつもりもないことを理解すべきである。我々は常にロシア人にとって近い親戚であったし、これからも常に、仮に我々が望まなくとも、そうあり続ける。国民は、我々無しでも、問題を解決するであろう。しかし、そのプロセスに我々も居ることができればよいと考える。

・ベラルーシとしては、全ての合意が遵守されるよう主張する。我々の同盟関係は、平等を基礎として建設していかなければならない。不平等な関係は、長く続くことはない。

・時代は変わった。今日、中世のように、どこかの国を占領し、100年～150年従属させることは不可能である。そして不要である。ロシアに土地は十分ある。もし、仮に誰かが我々の国の外から、占領しようと考えているのであれば、彼の命は長く続くことはない。貴首相と一対一で話し合いたい。選挙期間において我々において何が起きているか、説明したい。非常に奇怪なことがおこっている。自身の経験から、どこからこの事態が発生しているのか、しばしば考える。後ほど、貴首相に説明する。

ミシュスチン露首相の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシによる EAEU 政府間協議のとりまとめと実施に感謝申し上げます。ゴロフチェンコ首相は、全て上手く、快適に進むよう多くのことを行った。

・政府間協議では、貿易、商品・資産・国民の移動の自由の確保など多くの議題が協議され、我々は、生産的に取り組むことができた。また、関連する書類に署名し、実質的に全ての議題で合意と妥協が出来た。

・ベラルーシとロシアの二国間関係について、モスク

ワで合意された、原発分野を中心とした資源関連の協定に注意を向けたい。デジタル技術における共同案件が記載された。経済協力の可能性が絶対的に相互的なもので、平等なものであるよう、統合プロセスの発展において独立の維持は不可欠な条件である。

(7/17 大統領公式ホームページ)

### ●パシニャン・アルメニア首相と会談(7/17)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・何を隠そう、EAEUにはたくさん問題がある。合意したことが履行されていない。貿易上の国境はないことになっているが、ビジネスサイドは、「国家間に国境を設けて欲しい。国境があった方が、より単純で容易になる。」と言っている。

・政府間協議がEAEUにおいて一定の進歩をもたらした。今回の意見交換は非常に真剣に行われた。貴首相は、同協議においてモーター役として活躍したと聞いている。

・ベラルーシとアルメニアは、EAEUにおいて同じ問題を抱えている。我々は経済構造が似ている。我々には、他の同盟国と異なり資源が多くない。キルギスも同様かもしれない。資源価格が低迷している中でもカザフスタンとロシアはより多くの可能性を持っている。

パシニャン首相の発言要旨は以下の通り

・今回の政府間協議は非常に効率的であった。参加者は、障壁除去のための方針に合意できた。EAEUにある10の障壁うち8つについて協議できた。

・また、国家入札に関するEAEUの組織、行事についても協議できた。私は、本日の協議の結果、問題が解決されると確信している。

(7/17 大統領公式ホームページ)

### ●スラブバザール開会式に出席(7/16)

(7/16 大統領公式ホームページ)

### ●ヴィテプスク州第103空挺旅団を視察(7/16)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・徴集兵と傭兵がいるが、傭兵が必要な場所には傭兵を配備し、徴集兵が必要な場所には、徴集兵を育成する。

・現在の大統領選挙候補者は、戦争に行ったことがない。憲法に、軍役経験の無い人間が大統領に立候補できないと明記すべきであろう。軍隊を知らない人間が軍の総司令官になれるものか。

・もし女性が大統領に立候補したら、装甲歩兵輸送車と戦車、歩兵先頭車両などを区別できるよう、彼女を事前にヴィテプスク州旅団に送ろう。

(7/16 大統領公式ホームページ)

### ●ヴィテプスク州活動家と会談(7/15)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・全ての州都が、ミンスクと素晴らしい現代的な道路で結ばれた。しかしこれに留まってはならない。今後も、自動車道の整備を継続していく。

・市場の多角化も重要である。かつて、ロシアは、ベラルーシの貿易相手として90%以上を占めていた。現在、ベラルーシの輸出先に占めるロシアの割合は47%である。つまり、我々は他の市場へ移動した。これは非常に大きな開拓である。

・1995年以降、住宅環境が改善した世帯は、10万3000に上る。うち、8000世帯は、子供の多い世帯である。貧困率は、50%近く下落し、2019年時点で6%である。これは我々の指標ではなく、国際指標である。国民の実質賃金は7倍近くまで伸び、賃金や年金は9倍となった。もっと増えるべきであろう。

・執行上、技術上の規律と、国家の安定は、発展における基礎である。マイダンや改革が我々を救うことはない。

・人口8万人程度の都市や地域の発展計画がある。これは、オルシャ市から始まった。オルシャを模範として発展計画を進める都市が11ほどある。

(7/15 大統領公式ホームページ)

### ●ポロツク陸橋の竣工式に出席(7/15)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・本陸橋の改修は、信じられないくらい早く完工した。

数ヶ月も前倒しとなった。我々が、この(陸橋の)光景をスラブバザールへ与えることは大切である。非常に現代的で、利便性の高い陸橋となった。この陸橋は、スラブ民族に対する記念碑となった。

(7/15 大統領公式ホームページ)

## 外交

### ●EAEU 政府間協議の開催(7/17)

開会におけるゴロフチェンコ首相の発言要旨は以下の通り。

・2025 年までのユーラシア経済統合の発展に関する戦略計画は準備され、概ね合意された。同文書には、同盟の共通市場の形成のメカニズムや共同のイノベーター的な投資活動に向けた方向性の発展へのアプローチなどが規定されている。

・同文書の署名は、秋にミンスクで開催予定のユーラシア経済委員会ハイレベル会談において署名される予定である。

・戦略計画の仕上げに最大限尽力する必要がある。各国首脳にとって、ハイレベル会談までもう一度協議することは合理的であろう。

・ベラルーシは、統一された資源市場の形成に関心を有する。ユーラシア政府間協議の場には、障壁があり、同盟の各会議において、内国市場におけるこれら障壁の除去に関する問題が優先的に検討されており、この問題に関する一定の成果が見られる。

(7/17 ベラパン通信)

### ●マケイ外務大臣、ムーア駐ベラルーシ・米臨時代理大使と会談

同会談は、ムーア臨時代理大使の駐在期間満了に伴い実施された。両者は、ベラルーシ・米国関係の焦点の問題を協議した。

(7/17 ベラパン通信)

### ●ゴロフチェンコ首相、イオン・キク・モルドバ首相と会談(7/17)

ゴロフチェンコ首相の発言要旨は以下の通り。

・ベラルーシ・モルドバの貿易高は大きくないが、直近

3年で少しずつ成長を示している。2020年は微減となったが、これは世界経済の鈍化の影響であろう。

・産業と農業の分野においてベラルーシとモルドバは大きな潜在性がある。両国関係の基準に照らせば貿易高はもっと高いはずであろう。また、ベラルーシは、モルドバへのベラルーシ製機械輸出に関心を有する。6月、ベラルーシ政府は、ベラルーシ製機械の購入にあたり特惠融資を受けられるプログラムにモルドバの銀行を追加した。

・モルドバでは、ベラルーシのトラクターやトラローリーバスが組み立てられている。共同の努力によって、乗用車の製造等もできるであろう。

・またベラルーシは、モルドバからの野菜や果物、医薬品の購入に関心を有する。

キク首相の発言要旨は以下の通り。

・モルドバとベラルーシ政府は、両国関係を新たな水準に高めるために協力して取り組むことができると確信する。我々は今後も協力を発展させ続けるだろう。我々には、相互協力を強化するための多くの分野がある。

(7/17 ベラパン通信)

### ●欧州安全保障協力機構(OSCE)、民主主義と人権局、ベラルーシ大統領選挙へ監視団の派遣を実施しない旨、公表

(7/15 ベラパン通信)

## 経済

●2020年上半期、ベラルーシ農業生産量、去年同期対比、3.7%の増加。

(7/18 ベラパン通信)

●2020年上半期、ベラルーシ産業生産量、去年同期対比、3.1%の減少。ただし、ミンスク市内の産業生産量は、0.3%の増加。

(7/17 ベラパン通信)

●2020年上半期、ベラルーシ国内貨物輸送量、昨年

**同期対比 9%の減少。**

(7/17 ベラパン通信)

●ベラルーシ、米国産石油第2ロット目を購入。

本ロットの購入量は8万トン、リトアニア・クライペダ港経由で8月6日～8日に着荷予定。

(7/16 ベラパン通信)

●ベラルーシの2020年上半期GDP、去年同期対比マイナス1.7%。

(7/16 ベラパン通信)

●2020年1月から5月にかけてベラルーシ国内企業の負債額、13%超増加。

(7/15 ベラパン通信)

●露ベラルーシ、石油とオストロヴェツ原発に関する協定を署名

ゴロフチェンコ・ベラルーシ首相は、「オストロヴェツ原発の建設や、石油の供給条件を規制する協定に署名した。全ての文書は、ベラルーシの利益に沿ったものである。オストロヴェツ原発の建設に関しては、数百万ドルの節約となり、我が国にとって利益のあるものである。本議題に関する原則的な合意は、両国大統領によって得られたものである。」と述べた。

(7/14 ベラパン通信)

●2020年1月から5月にかけてベラルーシ国内赤字企業数、27.2%増加。

なお、赤字企業率は、16.6%から21.1%へと増加し、純利益額は70%減少した。

(7/14 ベラパン通信)

#### 軍事・内政

●パントウス国家軍需産業委員会委員長、イスマイル・デミル・トルコ防衛産業庁長官とテレビ電話会議。

両者は、共同連絡の発展や共同企業の創設などの軍事技術協力分野におけるベラルー

シ・トルコの二国間関係について協議した。

(7/19 ベラパン通信)

●ソリゴルスク市ベラルーシカリ社の従業員、8月3日と10日にストライキを実施予定。

同社では死亡事故が相次いでおり、従業員は勤務環境改善を同社に訴えてきたが、改善されず、政治問題の解決無しには成し遂げられないと理解し、8月3日、10日ストライキを行うと公表した。

(7/18 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ大統領選挙候補、ババリコ氏・ツェブカロ氏陣営と団結を表明し、以下事項の協力を合意(7/14)

・有権者に8月9日の大統領選挙での投票を呼びかける。

・政治・経済犯を釈放し、独立かつ公正な裁判所にて起訴事実の再確認を行う権利を提供する。

・8月9日の大統領選挙後に、再度、公正な選挙を実施する。

・有権者に様々な手法で自身の投票権を守る必要性を知らせる。

・有権者に公正な選挙実施のための各イニシアチブ(注:「公正な人々」、「選挙権」、「真実の運動」等のイニシアチブがある)に参加することを要請する。

(7/17 ベラパン通信)

●有力候補の登録拒否を背景に、ベラルーシ各地で無許可デモが実施。

ベラルーシ当局治安部隊は、デモ参加者を拘束する措置を行い、7月15日午前9時時点における拘束者数は、ミンスク市で200名超、プレスト市で約35名、ゴメリ市で約10名、ブルジュアン市で約10名、ソリゴルスク市で2名、バブリスク市で4名超に上った、なお、拘束対象には、大手民間ポータルサイト Tut.by

通信, ラジオ放送局「自由」, ラジオ放送局「ヨーロッパラジオ」の記者などメディア関係者も含まれている。

(7/15 ベラパン通信)

●中央選挙管理委員会は以下 5 名を大統領候補として登録。

- ・ルカシエンコ氏(現職大統領)
- ・ドミトリエフ氏(「真実を語れ」党 共同代表)
- ・カノパツカヤ氏(国民議会代表者院(下院)前議員)
- ・チェレチェニ氏(「ベラルーシ社会民主グラマダ」党代表)
- ・チハノフスカヤ氏(政治犯でブロガーのチハノフスキー氏の配偶者)

(7/14 ベラパン通信)

(了)